

報 寺 分 国

発行
真言宗国分寺派
大本山国分寺教学部
〒531-0064
大阪市北区国分寺
1-6-18
06-6351-5637
発行責任者 糟谷 眞教



奥之院燈籠堂での真言宗国分寺派・大本山国分寺の「開創記念慶讃法会」

慈悲を以もといつて本とし 利他を以せんつて先とす※（空海）

高野山開創1200年法要を終えて



真言宗国分寺派 管長 合田和教
大本山国分寺 座主

宗祖弘法大師が高野の地で、真言密教の教えを説き、その戒律を創り、勉学の大切さを訴えて学校を築かれてから1200年、今、私たちの多くが大師の教えを受け、出仕できましたことを心から感謝いたしております。

また「5・17開創記念慶讃法会」は、奥之院をはじめ金剛峯寺等のご協力をいただき、また、本山各山主やそのお弟子さんを含め、多くの壇信徒の方々がご参加下さいましたことに対し、重ねてお礼申し上げる次第です。

今回は、多くの方々と共に奥之院・御廟橋より一行道、燈籠堂の法要と、同じひととを過ぎさせたことは、私たち

にとっては無上の喜びでした。同時に私は、今は亡き西口公教師僧を思い出した最良の1日でした。その日を与えて下さった皆様に、改めて感謝いたします。

人生は「生老病死」の難行苦行の道。私たち国分寺派の僧、職員は心一つにして精進に励み、寺門興隆と、皆様方の幸せを願って止みませ

合掌

※もともと、その文の上に「菩薩の用心は皆」があり、菩薩の心掛けをいっただもの。空海はつづけて「自己より他人の利益を優先すれば、自らも幸福を得る」という。

2018年「国分寺中興300年」へさらなる飛躍めざしご寄進のお願い

国分寺宗務総長 糟谷 眞教

毎々末寺檀信徒の皆様方におかれましては本山護持の為に、多大なる御尽力を賜り心より感謝申し上げます。先の5月16日国分寺会、引き続き17日には高野山開創1200年記念慶讃法会にご参集頂いた皆様、共に御大師様のご元で「南無大師遍照金剛」とお唱え出



戦前の姿 (表門、現在の都島通り側より金堂を見る)



戦前の姿 (ここに写るものは現在すべて失われている)

称した。のち、仏教に深く帰依した聖武天皇により天平13年(741年)一國一寺の「国分寺建立の詔」を公布される。既存の「長柄寺」を撰津之國分寺(金光明天王護国寺)として定める。世俗「長柄の国分寺」と称され、今日まで歴代天皇十四帝の勅願道場として由緒ある法灯を守ってきた。

しかし、長い歴史の中幾度も戦火に晒され、豊臣氏が滅亡した大坂夏の陣、元和元年(1615年)全焼、その後約百年余り荒廃の極みであったが、ようやく中興の祖、律師快圓により享保3年(1718年)に再建、以下の文献に登場する。

攝津枚初圖會 秋里籬島 1798(寛政十)年 卷三

國分寺 國分寺村にあり。正國山金剛院と號す。眞言律宗。



焼野原となった国分寺とその周辺

本尊阿彌陀佛 聖徳太子御作。坐像三尺五寸計り。赤不動尊 弘法大師作。初めは高野山に安置しけるなり。

敷石地藏尊 初め玉造鍵屋坂にありし。當寺は國毎の國分寺の其一箇寺にして、本願は聖武帝、開基は行基僧正なり。荒蕪の後、快圓比丘中興して律院となる。國分寺料むかしは一萬五千束、其外施料の事(延喜式)あるは(文徳實録)にも見えたり。又東生郡にも國分寺あり。何れ一箇寺は國分尼寺の跡ならん。後考あるべし。

攝津名所圖會大成 暁鐘成 1855(安政二)年 卷之一

國分寺 國分寺村二あり長柄に鄰るを以て世俗長柄の國分寺といふ正國山金剛院と號す眞言律宗。本尊 阿彌陀佛 座像長三尺五寸許聖徳太子御作。

地藏堂 本堂東傍二あり俗二敷石地藏尊といふ其はじめ八玉造鍵屋坂にありしをこゝに遷すとす。敷石地藏尊 初め玉造鍵屋坂にありしなり。護摩堂 本堂の前西傍二あり本尊不動明王長三尺五寸許 弘法大師作にして俗二赤不動と稱す左右二羯羅制多伽の兩童子を安す前に毘沙門天王脇士左愛染明王 右觀世音 本尊不動明王ハ其はじめハ高野山に安置の尊像なりとぞ靈驗志ば々々あらたなりといふ。當寺本願ハ 聖武天皇開基僧正にして國毎に建營ありし國分寺の其一寺なり荒蕪の後快圓比丘中興して律院となる國分寺料むかしハ一萬五千束其餘施料の事延喜式および文徳實録にも見へたり又東生郡にも國分寺あり何れ一箇寺ハ國分尼寺の跡なるべし後人尚考ふべし。

このような由緒ある伽藍も明治の廃仏毀釈などの混乱期に境内地が割譲され再び荒廢するが、明治30年(1897年)より時の座主教昇により諸堂修營され、聖武天皇尊殿や記念碑が建立されたものの昭和九年の室戸台風により甚大な被害を受け、更には昭和20年(1945年)第二次大戦の大坂大空襲により旧書院門(現山門)を残し、ついに寺宝諸共灰燼に帰した。戦後、境内地は区画整理や一部官有

地であった為、大幅に縮小されるも、末寺檀信徒の強い希望により順次再興



第67世座主 敵勝光院 教昇大僧正

し、昭和40年(1965年) 昭和金堂を天平の古式にのっとり落慶、昭和59

年(1984年) 弘法大師1150年御遠忌の頃現在の姿となる。

1300年の間幾度も復興してきた大本山国分寺で御座います。平成30年(2018年)に中興300年という大きな節目を迎えるにあたり、平成23年(2011年)より境内整備を勧めております。



眞教

つきましては一人でも多くの方のご寄進を賜りたく何卒切にお願ひ申し上げます。次第で御座います。

開創記念法会の会奉行という経験

平賀 照教



今回、私は高野山開創記念慶讃法会の会奉行をさせていただき自分の甘さを痛感させられました。

1年半前に金剛峯寺宗務所から高野山開創記念法会のお話を頂いた際、私はまた奥之院灯籠堂で法会ができるのだと軽い気持ちでいました。初めは、自らが主となり行動する必

惟時 平成二十七年五月十七日

眞言宗国分寺派 管長 大本山国分寺 第七十世座主 大僧正 合田和教



開創大法会慶讃文
謹ミ敬テ 眞言教主大日如来兩部界会 諸尊聖衆 三國伝灯諸大阿闍梨耶 殊ニハ座禪入定遍照金剛ヲ始メ 当山歴代尊靈 別シテハ丹生高野兩大明神 總ジテハ尽空法界一切三宝ニ白シテ日サク
伏シテ惟ミルニ 宗祖大師御年四十三歳 嵯峨天皇ヨリ高野山ヲ賜リ伽藍ノ諸堂ヲ扒地建立セラレ ソノ基礎固マリ教風境内ニ輝ク
高野山開創ノ御心ハ 眞言教育ノ道場ヲ作り大師自ラ入定シ国家安穩 民衆ノ繁栄ヲ祈ル曼荼羅社会ノ建設ニアリ 茲ニ高野山ハ 宗祖大師弘仁七年嵯峨

天皇ノ勅願ヲ賜リ 御開創ヨリ今ヤ一千二百年ノ春風ガ流レル
斯シテ 平成二十七年開創一千二百年ヲ記念シ 高野山奥之院大師御廟宝前ニテ 御仏ノ教工般若理趣三昧法会ヲ誦經セントス
仰ギ願ワクハ 兩部ノ諸尊宗祖大師修行ノ地 高野山ニテ 眞言密教ノ教エニ基ツキ眞言宗国分寺派管長 大本山国分寺座主ヲ始メ末寺僧分一同 ソノ開創ノ意ヲ汲ミ 世界平和密嚴国土サラナル寺門ノ興隆ヲ擁護シ給ワシムコトヲ重テ乞
本尊聖者 倍增法楽 当山鎮守 倍增威光 護持施主 所願円満 增長福寿 乃至法界 平等利益

要はないと考えていましたが、実際私がさせていただいた会奉行というお仕事は、責任感、そして相手に説明する力も必要でした。これを通し、相手にわかりやすく説明することの難しさをも改めて感じさせられました。今回の法会で私は、1つ心残りがあります。1つの案件にこだわりすぎたため、他の作業を一時停滞させてしまいましたが、他に時間を回す余裕をなくしてしまいました。しかし、裏方の方々のみならず職衆の皆様から支えられ、暖かく見守っていただくことでなんとか乗り切ることが出来ました。この経験を活かして次に同役を任せていただけた時には、同じことを繰り返さぬよう、法会に関わる全ての事にアンテナを張り巡らせ、頑張らせていただきます。最後にありますが、高野山開創記念慶讃法会に携わらせていただけたことは私にとって大変貴重な経験となりました。

また今回、国分寺職員のみならず、国分寺派末寺をはじめ、金剛峯寺職員の皆様も方に御手伝いいただき、2日間このような盛大な法会が無事に終えられたこと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回の法会に満足することなく、3年後には国分寺中興300年大法会がありますので、それに向けてまた一から精進してまいります。

奥之院燈籠堂への出仕 今は亡き師僧との約束を胸に

国分寺執事長 名幸 観教

この度、高野山開創1200年記念法会に真言宗国分寺派・大本山国分寺の一員として、奥之院燈籠堂へ出仕し無事に執行出来まして一番に思う事。それは今は亡き師僧との約束でした。3年前、平成24年に私の師僧である松原山八正寺・名幸観雄前住職を合田管長と訪ねて行った時の話です。

その当時、師僧は体調を崩しておられ、次期住職の晋山式の打ち合わせをしている途中に突然、「今度の高野山開創法会に国分寺派は行くの？」と聞かれ、合田管長が「何も高野山から話して来ませんか」と答えられました。すると師僧は「高野山開創法会に国分寺派が行く時は僕も一緒に行くからな」と嬉しそうに答えられ、その時は私自身、苦笑いしか出来ませんでした。まさか自分達が出仕する事を考えたことありませんでした。師僧が姫路へ行かれる前は、国分寺の職員・淡路高野寺の住職として大阪に居ましたので、今も意識の中では国分寺の一員なのかと思うぐらいでした。



日に師僧は亡くなりました。

国分寺会の経験生かし

平成25年11月、高野山真言宗事務所から正式に高野山開創1200年記念大法会の真言宗国分寺派・大本山国分寺単一の出仕要請のお話を頂いたとき

「少しは成長しましたか」と

は、嬉しさを飛び越えて興奮しておりました。しかし、すぐに我に返ると交渉・決定事項が多すぎて困惑しました。国分寺では国分寺会を平成22年より毎年5月に執行しておりました。その経験をふまえ国分寺派・国分寺の特徴を生かし「皆が参加出来る法要」「またお参りに行きたいと思っただけのように」と考え、「入堂時の職衆立列の横に各寺院の寺族や檀信徒の方と2人で歩く」「奥之院燈籠堂外陣の入れ替え制」「御廟前での檀信徒献香」「声明に特化した次第・節の統一」をコンセプトに、全国の教師の先生方の御協力を頂き進めてまいりました。

高野山当日、立列の一員として奥之院参道を妻と胸に抱かれた子供と3人で歩いていきますと、緊張と嬉しさ・楽しさが入り混じる何とも言えない今ままで感じたことのない感覚になりました。あの平成24年以降、自分達に師僧が伝えたかったことは何なのだろうかと考えておりましたが、「このような雰囲気を経験する事かな」と何となく理解できたと思います。私が姫路にいる頃から師僧は「自分に何が出来るのか」「常に相手のことを考えなさい」と言われ続けていましたが、私から見ると師僧はやりたいたい放題に感じる時も

ありました。しかしながら、檀信徒の皆様や周りの方々の表情がいつもニコニコしていたのを思い出し、自分の価値観を変える事も出来ました。この法会で私は経頭という多くの経験を積まれた方がなさる配役を経験させて頂きましたが、あらためて考えますと自分1人では法会は出来ず、多くの教師の先生方に支えていただいていた、ここに師僧が一緒に出仕していただけであれば、「少しは成長しましたか？」と聞いてみたいのです。これからは師僧との約束を守り、自分が国分寺並びに淡路高野寺のために何が出来るかを考え歩んで行きたい。また師僧のようになりたいと考えております。

最後にになりましたが、今年の国分寺会並びに高野山開創1200年記念大法会に御参加・御賛同頂きました全ての方々に御礼申し上げます。何かと情報伝達・情報修正の遅さ等の今後に向けて多くの課題が出ましたので、改善し成長してまいりたいと思います。今後共よろしくお願いいたします。

合掌

宗派内でも国分寺の名高らかに 当寺の歴史に輝かしい1頁加わる

大本山国分寺総代 中村 興司

皆様はご存知だと思いますが、31年前、弘法大師1150年御遠忌大法会の式典で、第68代西口公教座主が導師として、高野山の奥の院で法要を行いました。その時は、国分寺の関係者は、数名で、後は他のお寺の方々の協力を得て法要を勤めさせていただきました。

今回の高野山開創1200年記念大法会の奥の院の法要は、合田座主を始



めとして、北は、北海道から南は、九州、長崎の国分寺派の関係寺の職衆26名と随喜衆他、高野山真言宗総本山金剛峰寺そして奥の院の関係者の絶大な協力により素晴らしい法要を挙行させて頂きました。

私も法要に随行させて頂きました。前日には、安倍晋三内閣総理大臣が金剛峯寺に視察に来られており、法要日の午前中には、菅義偉官房長官が、奥の院に来られておりました。

合田管長、糟谷総長と私は、午前中に、高野山真言宗管長、総本山金剛峯寺・中西啓賢座主様へのご挨拶をさせて頂きました。金剛峯寺の奥殿で昼食を頂き、奥の院の集会所で着替え、全員集合しての披露文の儀式を終えてから、参道の行列の進行から、奥の院燈籠堂への入堂、約2時間弱の法要、そして退堂への行列の進行まですべてが、厳粛かつ神々しく、そして輝かしく営まれました。

これは、近世国分寺始まって以来の

素晴らしい出来事で、この事は、国分寺の歴史に輝かしい1ページを加える法要だったと確信しております。私も一生に一度の貴重な体験をさせて頂きました。

この事により、真言宗のなかでも、「国分寺」の名前を更に輝かしく知ら

しめる事ができたと思います。

これを機に、更なる輝かしい「国分寺」の歴史をみなさまと共に築き合いたいと思います。今後とも、よろしくご支援のほどお願い致します。

真言宗国分寺派
大本山国分寺

高野山開創壹千貳百周年

開創記念慶讃法会

平成二十七年五月十七日
午後一時執行
於 高野山奥之院燈籠堂

式次第

- 入堂
- 献花・献茶
- 導師三禮
- 唄
- 散華
- 対揚
- 唱禮
- 前讚

- 理趣経
- 慶讃文
- 後讚
- 諸真言
- 佛讚
- 各三遍
- 光明真言
- 大師寶号

- 廻向
- 過去帳奉納式
- ご挨拶
- 退堂



団体参拝

開創1200年の高野山へ



大勢の人々が見守る中、全国の国分寺派一行が燈籠堂へ



ガイドさんの案内で、人の海をかきわけて



平和への願いをこめて

去る平成27年5月16・17日、国分寺団体参拝が行われました。今回の行き先は、開創1200年を迎えた高野山一泊の旅。檀信徒の皆様は宿坊に泊まり、伽藍で行われた大塔に映し出される3Dマッピングを拝見いたしました。皆様、荘厳で神秘的な時間を思い思い過ごされたご様子でした。

また、日帰り参拝の方々も、混雑の中、ほぼ予定通り

高野山内に着き、合流して昼食をとり、1時より国分寺派による慶讃法会を参拝しに奥の院燈籠堂へ。国分寺派末寺や一般参拝客を含め800人ほどの参拝者が奥の院に集まりました。皆様の思いを乗せて法要は行われ、高野山開創1200年をお祝い致しました。



夕食の前に合田管長が挨拶

す。小さいお子様も参加できるような内容になっておりますので皆様お誘い合わせの上ご参加ください。



夜のマッピングで根本大塔に幻想的な仏像が浮かぶ

国分寺会

妙なる声明おごそかに

今年の国分寺会は、高野山・奥之院燈籠堂での榮譽ある一大行事の前日、5月16日午前11時から執り行われました。この日は、朝早くから全国の国分寺派末寺の僧侶や参拝者がバスで次々と到着。国分寺の庭に張られたテントに多くの人が合掌し、厳かな声明に耳を傾けました。日頃なじみのない声明ですが、奥之



院での法会に向け、全国の末寺が懸命に取り組まれた結果が見事に発揮され、妙なる和のシンフォニーを奏でていました。その後、バス8台を連ね、一行は一路高野山へ。翌日の開創1200年 奥之院燈籠堂での一大行事に向かい、団体参拝へと移行しました。



春彼岸会

ご先祖様を廻向



平成27年3月21日、国分寺昭和金堂にて、春彼岸会が行われました。

例年より少し暖かい気候で、多くの皆様に御来寺頂きました。順に皆様のご先祖様を廻向させて頂き、午後1時の総廻向の後、管長祝下・宗務総長とお話を頂きました。参列の方々には熱心にお言葉を



聞かれておりました。また、午前中につきましましたお餅を配らせて頂きました。皆様笑顔で国分寺を後にされていきました。



関東別院



その後、檀信徒の方々全員をお加持し、全員でお齋を頂きました。山主様の榮妙先生や教師様方のお人柄に檀信徒の方々が癒され、1年の苦を癒し新たな1年に向け活力を頂いているのではないかと感じる法要でした。

平成27年4月17日、長崎県島原市の法祥院本堂にて大祭が行われ、管長・宗務総長を始め本山職員合わせて5名が出陣しました。法祥院酒井隆安師は、本山にて2度の集中講習を行い、檀信徒の前にて讃頭の大役を勤めました。ある信者さんは、隆安師の姿を見てその成長に涙を流されておりました。

法祥院大祭 (長崎県島原市)



宿坊「大明王院」で朝の勤行

各地講習会

前年度真言宗国分寺派では、高野山1200年記念慶讃法会に向け、各地域におきまして講習会が行われました。作法や読経の細やかな点を重点的に行いました。参加した教師皆様の表情が回を追うごとに真剣さを増し、我先にと本山職員を捕まえ読経の練習に励みました。本山に直接来寺され、5日間の講習を2回受けにいられた教師様もございました。その熱意に答えるべく本山職員一同サポート体制をとり、講習にあたらせて頂きました。



高野山での慶讃法会も無事盛大に執り行うことができました。努力は裏切らないことを本山職員一同教えて頂いたと思う次第でございます。

6月27日に1周年の慶賀を末寺檀信徒の皆様のお力添えの賜物と感謝致しております。便利さを追求するあまり大切な事はおろそかになり歪が生じて人々の苦しみ、悲しみは増えるばかりです。世の中の流れは速く、人間の能力を超えて進んでいます。しかしたくさんの人達が集う地域にもかかわらず関東の地にはまだまだそれを癒すお寺が足りません。人々のよりどころで衆生救済の場としてこれからも精進し続ける所存で御座います。

合掌 眞教



再興なった「中門」の四天王像

大仏師 松本明慶 作

高野山は何度も火災・焼失・再建を繰り返し、1843年9月の炎上では、由緒ある大塔、諸堂がごとごとく灰燼と化し中門も礎石を残すだけであったという。この時以来、中門再建は真言宗宗門あげての悲願となっていた。今回の開創1200年記念の根幹をなす事業は、弘



西方を守護する広目天 (胸にセミ)



南方を守護する増長天 (胸にトンボ)

法大師の教えを具現化した壇上伽藍の結界を護る中門再興だった。170年ぶりに再建された中門には四天王が安置された。修復された持国天・多聞天と新造された増長天・広目天。いずれも大仏師、松本明慶の制作によるものである。

とりわけ人々の目を引いたのは増長天の胸のトンボであり、広目天のセミだった。「あれっ、セミやトン

ボがとまってる」と人々が驚きの声をあげていた。トンボは決して後方に退かず前進する強さをもつものであり、セミは大きな声で鳴き、時空を超えて存在を知らしめるものであるというシンボリックな意味合いが込められたようだ。

あなたも高野山を訪れられた時には、松本明慶のこの力強い四天王像をぜひご覧になってください。

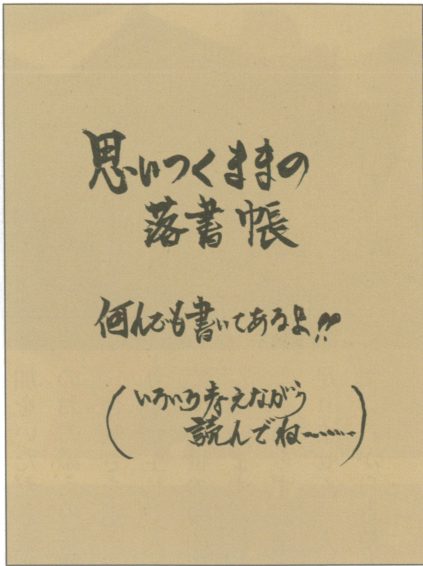
健太のひとりごと 2

今までは私はいわゆる人たちに支えられて甘えさせていただけました。しかし、高野山では周りの住職さん方の集中力・雰囲気を見て、私もそのような世界を経験できるようなりたいと強く思いました。そのためにも『見る』『聞く』『考える』『確認して行動する』を心がけ日常生活に活かしていきたいと思えます。そして皆様のいい部分を私自身に取り入れ、強い意志を持ち、周りの人達を支えていくことが目標になりました。

■暑い夏に思う

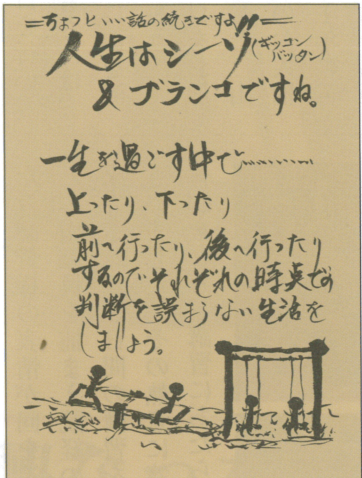
人は棺を蓋って事定まる。戦後の市民・平和運動の中心的リーダーだった哲学者の鶴見俊輔さん(93)が7月20日、逝った。悲しみは深い。

また、講習会において「是非、慶讃法会以降も読経の講習会を開いて欲しい」との声も上がりました。この先も本山や地方での講習会を行っていきたくと考えております。

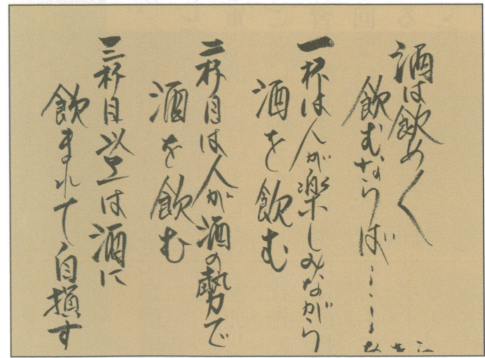


人生への応援歌 国分寺檀家 米倉彰さん

力強く躍っています。茶目つ気も入って、思わずクスッと笑わせてくださるものであったり、やさしさが溢れ出ているものであったりと。よりよくなつとうに生きること、周囲への感謝の念、実直に生きること、信条とする達観した人生訓がそこにあります。肩肘はらずに自然体でしなやか、芯がびしっと通っていて、春風のように背中をそつと押してくれる心あたたまる「落書き帳」です。



心ほのぼののいい話



百人いれば百人百様の暮らし方、考え方そして楽しみ方があります。人はだれしも穏やかな心で生きたいもの。でも私たちは生身の人間です。時には心乱される出来事に出会い、修羅と成って人を憎んだり、不遇を人のせいにしたたり、直視したくないもうひとつの自分の姿に気づかされ、己れの醜さを嘆き、一層窮地へと追い込まれたりもします。でもそれもこれもみな私自身。人生の豊かさは、お金のあふりしでなく、遭遇した逆境の中で自分をどう引き受け次の一歩へと踏み出せるかではないでしょうか。

人間はみな、この世の旅人です。山もあれば谷もある。そうした日々の思いを文章や絵に綴っておられる方が国分寺の檀家さんにおられます。米倉彰さんの「思いつくままの落書帳」という墨跡あざやかな達筆でしたためられた小冊子が傑作です。文字も絵も筆が

平成26年度 入宗者

カッコは師僧の住所
今仁 宗真 (埼玉県)
中澤 雅志 (岩手県)

酒井 陽朱 (長崎県)
下田 敬妙 (埼玉県)
小川 大勇 (奈良県)

国分寺 平成27年下半年 行事予定

8月16日 施餓鬼法要
8月23日 地藏盆会
9月秋分の日 秋彼岸会

10月25日 団体参拝
12月31日～1月1日 正月会

各行事の時間は国分寺へお問い合わせください。

蓮を観じて

蓮を観じて自浄を知り
葉を見て心徳を覚る (空海)

ことを知り、その実を見ては心に徳がそなわっていることを思う」という。蓮は泥の中で育ち、泥に染まらず咲く。また、つぼみのうちから実を持つっており、本来、心には徳があることから、仏の花、極楽浄土を象徴する花として仏像の台座となっています。



編集後記

開創1200年祭の高野山は一人に押されて高野参りでした。早朝、杉木立の参道に苔むした各墓所を訪ね歩けば、ただ冷(霊)気の中に諸行無常の気配を感じました。▽人それぞれの

想いの高野詣でした。国分寺総代・中村興司様をはじめ、合田和教・座主等各僧の感想文、糟谷真教・宗務総長の2018年「国分寺中興300年」へのお願いを載せました▽ご参加の皆さん、引き続き秋の「団参」をお願いします。また高野山へも一緒に。

家族葬専門葬儀社 山葬 yamasou

1. 山葬はご家族の想いを大切にいたします。
2. 精一杯お手伝いさせていただきます。
3. ご家族・友人でおくる低価格の家族葬をご提案いたします。

〒530-0026 大阪府大阪市北区神山町10-13 KENTUCKY II 501
TEL 06-6365-1771 FAX 06-6365-1772
携帯 090-7487-6889 (山本)
E-mail yamasoumail@gmail.com
URL http://www.nisso-osaka.com

光堂 翠光堂 仏壇 仏具

淡路駅前店 〒533-0032
大阪市東淀川区淡路4の9の12
電話 06(6324)0801(代表)

創業80年 葬儀社花熊 家族葬専用式場



Flower Hall

花熊フローベアホール
北斎場前
大阪市北区長柄西1丁目3-33
0120-130-930

納得価格で、誰もが満足のいく葬儀を提供します。
無理のない、充実した家族葬

創業明治十年 直葬から一般葬まで 家族葬の川上葬祭

大阪市規格葬儀取扱指定店 厚生労働省認定 葬祭ディレクター技能審査1級葬祭ディレクター在籍
本社：生野区桃谷1-10-10 キタ店：北区天神橋6-1-1 天王寺店：天王寺区寺田町1-3-5

電話受付24時間(年中無休) 0120-420-441

地域限定

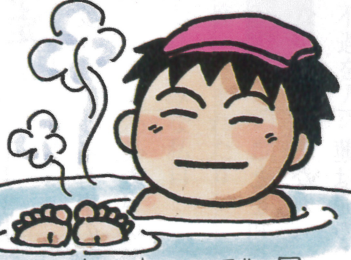
これが常識

うそお

その2. ハダカの話

10年以上前だが、イタリアのジェノバから船に乗って北アフリカのチュニスに渡ったことがある。地中海は紺色に輝き、6月の風が爽やかだった。潮風に誘われデッキに出ると、そこに仰天する光景が待っていた……ヨーロッパから来たホワイトアスパラ色の老若男女が、パンツ一枚で集団日光浴をしていたのである。

以前、北欧を旅した友人が言っていた。人々は太陽に飢えているから、わずかでも陽が射すと自宅だろうが公園だろうが構わず脱ぐと。この人たちも日々の行動をそのまま持ってきたわけだ。しかし、船には地元のアラブ人も大勢乗っていた……見られて気にならない人は、見えて恥じらう人の戸惑いもあり気にならないみたいだ。



そんな西洋人ですら仰天するのが日本の温泉である。フランスから遊びに来たマイテは、顔をまっ赤にして部屋に駆け込んで来た。日光浴は平気でも他人との入浴は耐えられなかつたらしく、早口でブツブツ怒る。しかも、浴衣がはだけてだらしない宿泊客に指摘され、ますますブチ切れて吠えまくる。

全部脱ぐ
あなたがよほど
はしたない
じゃない!!

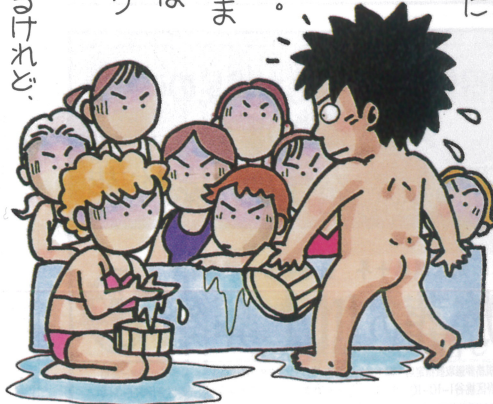


……確かにパンツ一枚分、我々の方が分が悪い。



たえ子供と行水してもバングラデシュの女性は決して脱ぎません。

のぞきうだ。インド女性はお腹を出して生活している割りに、脚を出すのが死ぬほど恥ずかしいと言っ。トルコのブルサで温泉に行った時、何も考えず素っ裸で入ったり、それまでざわついていた購買の浴場に沈黙が流れた。人々は水着か下着姿のまま湯舟につか、っており、見てもならないものを見たままり悪さで硬直していた。



韓国にもマカすりがあるけれど、他人と一緒に入るんだろうか、素っ裸なんだろうか？ 行ったことのある方、教えてください。

他国のセンスをおもしろがる前に、どうして我々日本人は風呂というだけでかくも抵抗なく全裸になれるのだろう……？ 洋画の「ぼかし」はどれくらい意味があるのだろう？ 世界中が首をかき上げるミステリーである。